

## スローガン 「自分たちのまちは、自分たちで守る」

地区防災計画は、私たちが生活する地域住民の生命、財産を守るため、地域の特性を踏まえ想定される災害に応じて、平時の防災活動や災害時の行動を地域の住民で継続して考え、話し合いながら作る計画です。

自助・共助による防災活動を見直し、地域住民が自ら防災・減災の強化に取り組むため、形原地区では令和6年度に総代会、自主防災会、小・中学校、保育園、福祉関係者等を中心とした形原地区防災計画委員会を立ち上げました。

この計画は、形原地区の防災・減災の取り組みについて議論し、将来を見据えた上で当面の取り組みについて書面にまとめたものです。形原地区住民が、この計画に基づき災害に対する万全な備えを実施し、いざという時に被害を最小限に食い止めることを目標に、助け合える地域づくりを目指します。

自助（個人・家庭）	<ul style="list-style-type: none"> <li>耐震診断・耐震改修、家具の固定、飲食料品の備蓄を推奨します。</li> <li>災害リスクや避難経路、家族との連絡方法等、災害に備えた確認を進めます。</li> </ul>
共助（地域・防災会）	<ul style="list-style-type: none"> <li>隣近所同士、助け合えるコミュニティの確立を目指します。</li> <li>津波・土砂災害警戒区域の地域では、避難の周知、訓練を行います。</li> <li>風水害時の避難行動判断（垂直・水平避難）の啓発を行います。</li> <li>各避難所の開設および運営に向けて訓練を行います。</li> <li>その他、事前準備と支援体制、組織間連携の構築、訓練による検証を行います。</li> </ul>
地区防災計画委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要課題を中心に、各種取り組みの実施や検証を継続的に行います。</li> <li>住民への広報および、住民からのご意見・ご要望等を公募し検討します。</li> </ul>

### 計画範囲と目標年度

#### <対象範囲>

- ・形原地区（形原町・金平町・一色町）とします。

#### <災害>

- ・主な災害としては、南海トラフ地震などの巨大地震を対象とします。
- ・風水害に関してはハザードマップをもとに、対策が必要な地域に対し水平、垂直避難の周知と避難行動判断の啓発を行います。

#### <期間>

- ・5年間で取り組みを進め、2028年度末までを計画期間とします。

計画区分	期間	取組内容
準備期	2024年度	計画の検討および体制作り
検討期	2025～2027年度	重要課題に関する対応 訓練等を通じたマニュアルの検討
検証期	2028年度	組織体制の確認、課題の検証 地区防災計画の更新に伴う検証等



### 地区の災害リスク

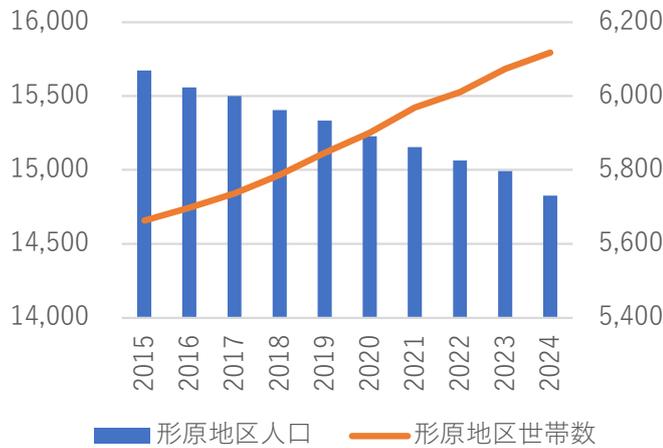
地震	沿岸部及び地区南部で震度6強
液状化	沿岸部で液状化の危険性が高い
津波	沿岸部の一部で基準水位 1.0～3.0m

土砂災害	土砂災害警戒区域で被災
洪水	浸水域なし
高潮	沿岸部の一部で 5.0～10.0m

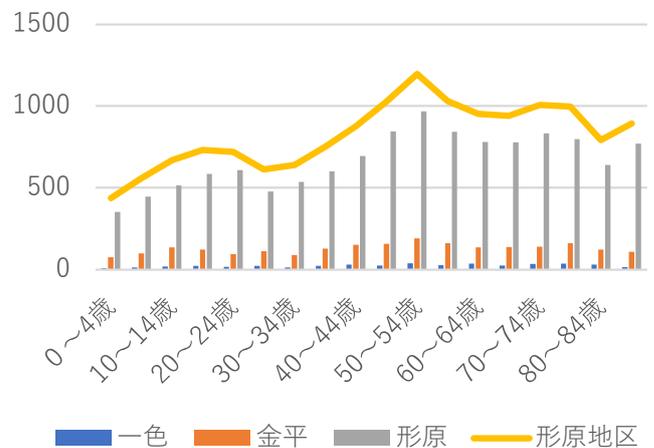
## 地区の概要・特徴

2024年4月の形原地区の人口は14,825人、世帯数は6,118世帯です。過去10年の間に、人口は848人減少し、世帯数は455世帯増加しています。一方、形原地区在住の外国人は、過去10年の間で105人増加しています。また、0～19歳の割合は過去10年で535人（2.5%）減少し、65歳以上の割合は過去10年で269人（3.4%）増加しています。

人口と世帯数の推移



2024年4月 年代別人口



## 住宅の耐震性

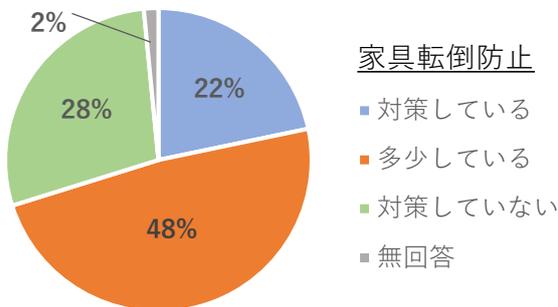


形原地区では昭和57年以降の住宅に住む世帯の割合は54.6%、これに昭和56年以前建築で耐震性がある住宅（耐震診断をして耐震性あり+耐震改修済）の割合9.1%を加えると63.7%となっています。県内の耐震化率（約90%）に比べ低い状態です。 ※建築住宅課2023年調査



## 住民アンケート結果 ※形原地区防災訓練参加者392人

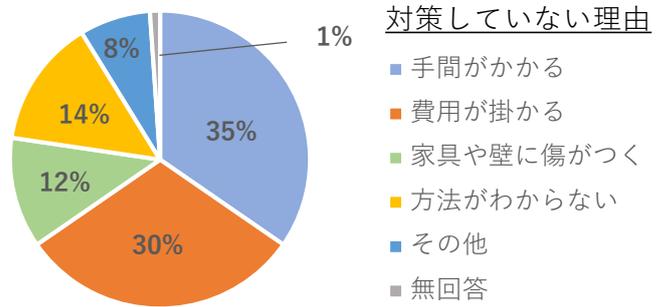
### 家具転倒防止



### 家具転倒防止

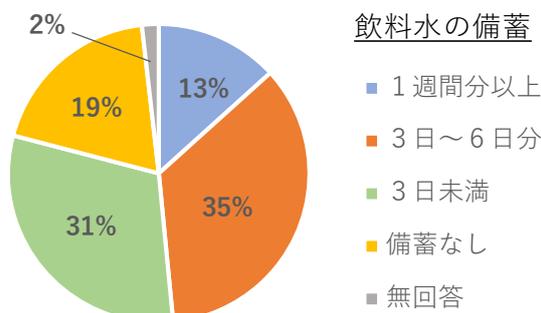
- 対策している
- 多少している
- 対策していない
- 無回答

### 対策していない理由



- 手間がかかる
- 費用が掛かる
- 家具や壁に傷がつく
- 方法がわからない
- その他
- 無回答

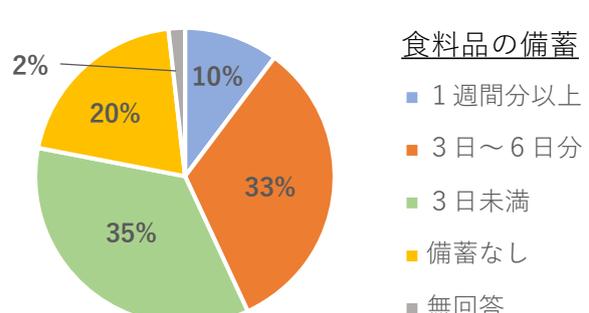
### 飲料水・食料備蓄



### 飲料水の備蓄

- 1週間分以上
- 3日～6日分
- 3日未満
- 備蓄なし
- 無回答

### 食料品の備蓄



- 1週間分以上
- 3日～6日分
- 3日未満
- 備蓄なし
- 無回答

## 地区の重要課題・優先事項

2024年度に開催した形原地区防災計画委員会において、参加者からの意見をもとに、重要課題を6項目抽出しました。今後の計画推進にあたり、優先順位を明確にしなが課題解決に向けた取り組みを行う必要があります。

### ①災害への備えの啓発 ※耐震化率データおよびアンケート結果参照

自分・家族の命や怪我のリスクを減らすために、災害発生時と災害後に備えることが必要になりますが、耐震化率・家具転倒防止対策および飲食備蓄が進んでいない現状があります。

### ②家族・地域の情報共有

災害発生時、家族内では学校・仕事など外出している場合の連絡方法や、電話不通時などの連絡手段について決まっていません。また、地域（総代・常会長・防災会）や団体・グループが、連携するための連絡体制・情報共有が確立されていない現状があります。



### ③災害弱者への対応

災害弱者と呼ばれている方への対応・支援で、誰が・何をすることが不明確で、また現実的に地域だけで対応ができるかに不安を抱えている現状があります。

対象者	高齢者、障害者、傷病者、乳幼児、妊婦、観光客、外国人、ペット
支援・施設	行政、民生委員、学校、保育園、公共施設、福祉事業所

### ④地域コミュニティの強化

地域コミュニティの希薄化は災害が発生した際の、避難行動や避難所運営にも影響を及ぼすと考えられています。日常的に近所・隣人とのコミュニケーションを取ることで、高齢者や子供を助け合える体制を作ることが求められています。



### ⑤特性に沿った課題解決

形原地区として共通する、空き家・ブロック塀の対応、避難経路の道路整備、鳥居・石垣・墓石等の倒壊など、全域的な課題だけでなく、津波や土砂崩れ、液状化、池・川の氾濫など、地域によって異なる課題への対応が必要となります。

### ⑥災害時の役割分担

形原地区として共通する課題がある一方で、海・山・河川など地域によって異なる課題を抱えています。そのため、全域的な課題だけでなく、地域特性に沿った課題についても、地域ごとに考えるなど柔軟に対応する必要があります。



担当者が不在の役割	避難時および避難所運営の役割分担表について30%が未記入（担当者不在）の状況への対応
地域ごとに異なる役割	例えば「高齢者の避難支援」の担当者が総代区ごとに、総代・常会長・自主防災・民生委員など異なる現状
地域を超えた連携方法	避難時の協力、避難所運営などの役割分担

## < 6つの課題に対する優先度・今後の取組 >

形原地区防災計画委員会において、6つの重要課題に対して1～6の優先順位を考え、平均値を算出いたしました。目標年度である2028年度に向けて、検討期（2025～2027年度）では、優先順位が高い課題を中心に各種取組みを進めます。※数値が少ない項目が優先順位が高くなります。

災害への備えの啓発	1.7	災害弱者への対応	4.7	特性に沿った課題解決	4.7
家族・地域の情報共有	3.1	地域コミュニティの強化	3.0	災害時の役割分担	3.7

## 平常時・発災時の各種防災減災活動

### ①平常時の防災減災活動

災害時の混乱・被害を最小限に抑え、各種組織や取組が機能するように、平常時から啓発・訓練・組織間連携が必要となります。総代区・常会・自主防災組織・避難所・施設等の多様な枠組みで、形原地区防災計画に基づいた防災減災活動の推進を目指します。

安否確認・初動体制	○津波、土砂災害、風水害時における避難訓練および避難行動判断の周知 ○避難行動要支援者の対応等（福祉事業所との連携）
避難所	○運営マニュアルの確認と検討 / 防災倉庫の資機材取扱訓練 ○運営訓練（受付、資機材取扱訓練等、施設管理者、行政職員との連携） ○炊き出し訓練、給水訓練
防災啓発・組織連携	○耐震、家具の転倒防止、備蓄等備えの啓発 ○ふれあい活動等、地域活動、学校などでの防災啓発の工夫 ○組織間で連携がとれるよう地区防災計画委員会の定期開催

### ②発災後の防災減災活動（例）

災害時には、様々な役割が求められますが、現状明確な役割分担が定められていません。そこで、地区全体として基本的な役割を定め、また総代区単位などの地域特性に応じた柔軟な対応が必要となります。また、自助・共助を中心に考えながら、公助も含めた精査や関係各所との連携を考える必要があります。

発災直後	○自分・家族・施設利用者の安全を確認し、自宅や周囲に危険がないか確認
安否確認後	○隣近所への声掛け実施、および災害弱者への避難支援 ○津波や土砂災害の可能性のある地域に対する避難誘導
発災後72時間まで	○避難所開設・運営（被害情報の収集、給水活動、支援物資の配布等） ○避難行動要支援者、乳幼児、障害者、外国人などの災害弱者への支援
発災後72時間以降	○多様化する要望への対応や心身の機能の低下注意



## 避難所

指定緊急避難場所	形原小学校校庭、形原北小学校校庭、形原中学校校庭、蒲郡文化広場運動場、双太山公園
指定避難所	形原保育園遊戯室、形原南保育園遊戯室、形原北保育園遊戯室、形原小学校体育館 形原北小学校体育館、形原中学校体育館、蒲郡文化広場体育館、形原四区しあわせ会館
地域避難所	形原中学校、かたはら児童館
届出避難所	形原八区集会所、太陽の家
福祉避難所	形原眺海園、ぬくもりの家、憩いの社蒲郡、グループホームなばな宛、グループホームみかんの木

----- 切り取り線 -----

## 形原地区防災計画（案）ご意見・ご要望の受付

必要事項をご記入いただき、切り取った用紙を形原公民館の意見箱に入れていただくか、QRコードのフォームからご送信ください。 ※締切：2025年1月22日（水）



<p>-----</p> <p>-----</p>
---------------------------